

萩原 弘之

(民主クラブ)

## 富良野農業のこれから

**問** 農業及び農村基本計画の5年間の検証と今後のスケジュールは。

**答** 重点取り組みとして掲げた4つの柱について検証を進めている。それぞれに一定程度の成果が出ていると判断しているが課題もあり、特に「人づくり」については、「基盤づくり」「システムづくり」「産地づくり」を機能させるために、特に力を入れていく必要がある。今後は7月に「富良野市農政審議会」を設置し、内部検証結果をもとにさらなる検証を行い、関係団体と意見交換をしながら実施すべき施策策定を検討していく。

**問** 農業の担い手対策の新たな考えは。

**答** 経営継承をする上で参入者を共同経営者として時間をかけて育成する方法や段階的な資産移転をする方法など調査研究をしていく。



農業及び農村基本計画

**問** 農産物の海外輸出支援は。

**答** 情報の収集をして各関係団体、市内青果業者とも意見交換を行っている。

**問** 農産品パンフレット作成は。

**答** 農産品取り扱い団体がそれぞれ行っている。PRについては現状を把握し効果的な方法を研究していく。

## 子ども達から見た楽しい学校生活とは

**問** Q1Uアンケートの導入は。

**答** 現在2校が取り組みを始めている。これまでも「いじめアンケート」などを行って調査をしているが道教委が推進している「ほっと」など活用して「心の教育」活動を深めていく。

今 利一

(市民連合)

## 市民参加は十分？

**問** 保育所再編の施設計画策定にあたり、4名の保育士が策定作業に当たったと聞いているが、父母の皆様の参加が市民参加としては不十分では。

**答** 市としては、市民参加手続きを行う中で、地域懇談会、各団体との意見交換会を行った。また、パブリックコメントもいただいた。保育施設の具体的な設計においては、4名の保育士が参加し13回話し合いを行った。市民参加は十分と考える。



あおぞら保育所の園児たち

**問** 健全児と障がい児の統合保育の今後の方向性は。

**答** 統合保育の実施については、これまでも実施しており、今後も引き続き実施していく。

## 北の峰、山部、東山地域観光振興計画は

**問** 計画策定における各地域の方向性は。

**答** 山部、東山は農村地域で、北の峰地域は地域住民に加え、観光客が共存している地域であるため、それぞれの資源や特色を活かした取り組みが必要。

山部は、農業体験や農産品を巡るツアーや直売所、リサイクルセンター等、山部まるごと体験村の各種体験等により交流人口拡大を図り活性化を目指す。東山地域は、農業体験や自然景観を活かしたウォーキングイベントの開催、直売所による農産物のPRを行う。北の峰地域は、スキー場、演劇工場、自然塾等、観光資源や宿泊施設も多く、花観光の推進、スポーツイベント、飲食店との連携等により観光客と地域住民の交流による地域活性化をめざす。